

会員各位

メトロポリタン史学会 第2回秋季シンポジウムのお知らせ

「いま社会主義を考える—歴史からの眼差し—」

今日から見れば、社会主義体制は20世紀特にその後半という、限られた時代の歴史的産物でしかなかったことが、すでに明白になっている。物心がついたころにはベルリンの壁もソ連もはや存在していなかった、そんな若者たちが大学生となる現在、かつてのイデオロギーから離れて、社会主義の歴史的意味を冷静に探るべき時が来ているように思われる。

とはいえ、社会主義体制が掲げたマルクス主義を含む、社会主義それ自体はまぎれもなく思想・運動であり、多くの人を捉え動かした。それなしには社会主義体制が成立しえなかったことは否定できない事実である。

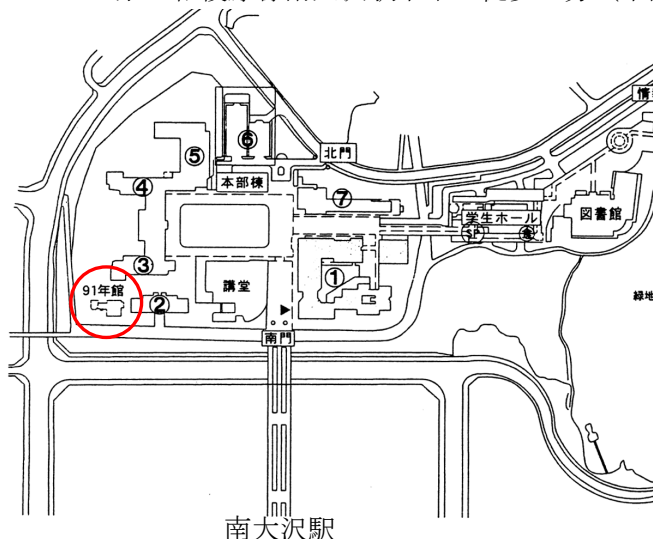
20世紀において、どのような状況の下で、どのような人々が、社会主義思想を受け入れ、再解釈していったのか？そこから、どのような運動が生まれ展開されたのか？そうした思想や運動と、現実に存在した社会主義体制はどのように関わっていたのか？また、今日から見て、そうした社会主義の思想・運動や社会主義体制は、どのような歴史的意味をもっているのか？

シンポジウムでは、そのような問題を考えてみたいのである。

記

日 時 2006年11月25日(土)
午前10時～午後5時30分
(午後6時より懇親会)

会 場 首都大学東京(東京都立大学)91年館多目的ホール
京王相模原線南大沢駅下車・徒歩5分(下図参照)



日 程

【午前の部】

報告 1. 10:00～10:50

中嶋 毅氏 (首都大学東京・東京都立大学)
「社会主義ソ連における国家と社会の変容」

報告 2. 10:50～11:40

奥村 哲氏 (首都大学東京・東京都立大学)
「文化大革命から見る中国社会主義体制」

報告 3. 11:40～12:30

篠原 琢氏 (東京外国語大学)
「チェコ異論派の全体主義論と歴史認識」

<昼食: 12:30～13:30>

【午後の部】

報告 4. 13:30～14:20

栗原浩英氏 (東京外国語大学)
「ドイモイの20年: 制度としての社会主義から理念としての社会主義へ」

報告 5. 14:20～15:10

平塚健太郎氏 (東京都立大学大学院)
「日本における初期社会主義」

報告 6. 15:10～16:00

和田春樹氏 (東京大学名誉教授)
「思想としての社会主義」

【全体討論】 16:20～17:30

【懇親会】 18:00～20:00 (会費 3,000 円)

メトロポリタン史学会

〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1 首都大学東京 都市教養学部
人文・社会系 国際文化コース 歴史・考古学分野内
TEL 042-677-2110 (木村誠研究室) Mail: mshigaku@comp.metro-u.ac.jp